

感想

下田たづ

十月二十一日、皇太后陛下東京女子高等師範學校へ行啓遊しました時、陛下御在園當時の保母の中の唯一人の現存者として、特に拜謁を賜りました下田たづ女史に、その有難い感想を承り、廣く讀者に感激をわかつましたのでござります。下田女史は記者の心持を諒せられまして七十二歳の御老體にも拘らずお元氣に、わざく附屬幼稚園に來られまして、左の様にその感想を語られたのでございました。記者の不備の爲に盡せぬ事の多いことはお詫びしなければなりませんが、私共幼稚園關係者いたしましてこの老齡の今も尚、斯うした熱意をもつて努めてをられる大先輩を持つてゐることを心から喜び、感謝し、よき後輩になるやうにつづめなければならぬと深く感じたのでござります。(記者)

私は唯あり難い、勿體ないといふ感激で一ぱいで、何も申し上げることはございません。

私一人に特に拜謁を賜はつたのでござります。私はその時、御案内をいたしまして、二階の御便殿からお出ましになります處を、二階の廣間でお待ち申上げてをりました。私がかしこまつてをりましたところへお出ましになり、校長が御紹介なさいます。私の前へすぐお立ち遊ばれました。そしてお低いお聲で、私に有難いお勞らひのお言葉をいたづいたのでござります。平伏してをりまして拜しました御裾から、陛下が可成り長くお立止り遊ました事がわかりましたので

ございます。一人だけ特別に御通路拜謁を賜るこいふ事を伺ひましたので、前日そこをお通り遊ばしますかを承つて置いたのでござりますが、この様な有難いお言葉迄賜るこは豫期してをりませんでした爲、餘りに感にうたれまして、陛下がお歩き初めになりますこあこ、自然にすつそちらに體を向けまして奉送申し上げます様なこことになりましたのでござります。

本當に感激に堪えませんでございました。或る新聞などには、私が最早思ひ残す事はないこ申した様に出てをりましたがそうは決して考へてをりません。年をこつた身ではございますが、何こかして健康を保ちまして、外に對しましても、内に對しましても、相應の事を致しまして、自分こしましては身をつゝしみ、行を正しくし、修養につゝめて参り、有難い御恩にお報ひ申し上げ度いこ考へてをります。年寄りのわかりませぬ事は若い方々に伺ひ、お邪魔になりませぬ様に、年寄は年寄の仕事があるのでござりますから、安逸に流れない様に致し度いこ存じてをります。年をこりますこ兎角く安逸に流れ易いものでござりますから、私は尙一層修養をつみまして、安逸に流れぬ様にこくにいましめて、世の中に處して參り度いこ存じてをります。

實にこの度の御儀は深きく思召しこ拜察申上げまして、畏多く身に餘りました光榮こ存じ奉ります。そして御思をうけました、母校御師、その他皆様方の御事があこからく思ひ浮べられまして、感謝の念に堪へませぬ。

口 繪 説 明

畏れ多いこですが、皇太后陛下が御在園當時の附屬幼稚園舎(お茶の水)を五十分の一に型つて、行啓の日に台窓に供しました。及川ふみ子氏苦心の製作です。